

Doc. 2163 Evid.

~~Folder 7~~

(132)



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

EVIDENTIARY DOCUMENT NUMBER 2163

TITLE: "Collection of Special Reports" by Police Bureau of Home  
Ministry

SOURCE: Home Ministry

MICROFILMING

Document 21643 Source: Home Ministry

has been microfilmed on 22 Oct 1948 for  
permanent historical record.

(None) (Part) of this document had been extracted for court use.

F. MATTISON  
Files Unit  
Document Division



INTERNATIONAL PROSECUTION SECTION

DOC. NO. 2163

21 June 1946

ANALYSIS OF DOCUMENTARY EVIDENCE

DESCRIPTION OF ATTACHED DOCUMENT

Title and Nature: "Collection of Special Reports"  
by Police Bureau of Home Ministry

Date: 30 July 38      Original (x) copy ( )  
      5 May 45

Language: Japanese

Has it been translated?      Yes ( ) No (x)

Has it been photostated?      Yes ( ) No (x)

LOCATION OF ORIGINAL (also WITNESS if applicable)  
Document Division

SOURCE OF ORIGINAL: Home Ministry

PERSONS IMPLICATED:

CRIMES TO WHICH DOCUMENT APPLICABLE:

Suppression of thought

SUMMARY OF RELEVANT POINTS (with page references):

Contents:

1. Re maintenance of public peace before and after occupation of HANKOW (30 July 38)
  - a. Public peace police should take advantage of every opportunity in contacting public to instruct them in meaning and object of holy war and to strengthen their resolve to serve country by sacrificing self
  - b. Speeches and publications re amicable settlement with CHIANG Regime must be strictly controlled.
  - c. Control of following items must be established:
    - 1) Word re opposition and dissension within army or government.
    - 2) Public instigation to take action against government re imposition of stringent national living

Doc. No. 2163

Page 1



- 3) Revelation of Japanese weakness in resources or finance
  - 4) Exaggeration of effect of war on national livelihood by relating tales of bankruptcy or unemployment
  - 5) Rumors tending to confuse public thought
2. Re maintenance of public peace in new stage of Greater East Asia War.
  3. Re permission or prohibition of societies
  4. Re use of police in plain clothes on emergencies such as air raids, etc.
  5. Re control of various thoughts caused by urgent European situations, etc.
    - a. Severe punishments must be meted out to those spreading ill-natured rumors.



2163

R 109mm

A 14 Jm

Project No. 150

L. SASAKI

S. A. No. 15036

Sack No. 2

Item No. 51

Collection of Special Reports

by Police Bureau of the Home Ministry

July 30, 1938 - May 5, 1945

Index

- Re Maintenance of Public Peace Before and After the Occupation of Hankow
  - Re Maintenance of Public Peace in the New Stage of The Greater East Asia War
  - Re Permission or Prohibition of Societies
  - Re Use of Policemen in Plain Clothes on Emergencies, such as air-raids, etc.
  - Re Control of Various Thoughts, caused by the Urgent European Situations, etc.
- Big names involved? N6



DIARY OF GREATER EAST ASIA,  
MANCHURIAN DIARIES, WAR DIARIES,  
GREAT WAR DIARIES

日記

DOC. NO.

NO. OF PAGES



Proj. No. 150

S. A. No. 15036

Sack No. 2

Item No. 51

2/63



目次

年月日	發番号	件名	索引
一三、七、三〇	警備局保甲 第一二六号	漢口攻略前後、治安維持ニ關スル件	一
八一三〇	右同 第二号	大東亞戰爭、新段階ニ於ケル治安維持關スル件	二
八一三八	右同 第一二二号	結社許可處分ニ關スル件	三
一、九、二四	右同 九号	在野黨其他等、新段階ニ於ケル治安維持關スル件	四
			五
			六
			七
			八
			九
			一〇
			一一
			一二

内務省



2163

極秘

警保局保發甲第二六號

昭和十三年七月三十日

內務省 警保局長

警視總監殿  
各廳府縣長官殿

漢口攻略前後ノ治安ノ維持ニ關スル件

支那事變發生以來國內治安ヲ確保スルコトノ特ニ重要ナルニ鑑ミ其  
具體的方策ニ關シ既ニ屢々指示ヲ通達等ニ依リ各位ノ御配慮ヲ煩  
ハシ來シル處聖職目的達成上至大ノ影響アル漢口攻略モ略々其ノ見  
識ヲ爲シ得ル狀況トナリタルガ漢口攻略ハ單ニ軍事的ニ重要ナルノ  
ミナラズ其ノ外交的、政治的乃至思想的影響等極メテ甚大ナルモノ  
アリ。而シテ漢口攻略ノ時期切迫ニ伴ヒ最近國際情勢ハ頓ニ緊張微

阿部



妙トナリツ、アルノミナラズ國內諸般ノ情勢亦警戒ヲ要スル様相抄  
カラズ殊ニ漢口攻略後ノ事變對處策ニ關聯シテ國內諸方面ノ思想的、  
政治的動向ハ漸次複雑深刻化シツ、アリテ戰爭遂行上ノ絶對的要求  
タルベキ國內治安ノ前途ハ甚ニ容易ナラザルモノアリト思料セラレ  
各位ハ今次聖戰ノ性質ト國際情勢ノ動向ニ鑑ミ治安ノ狀況ニ因リテ  
戰爭目的達成ニ聊カタリトモ障害ヲ來スガ如キコト絶對ニナカラシ  
ムル様國內治安ノ維持ニ就キ特ニ一層御留意ノ上部下ヲ督勵シ關係  
方面トノ連絡ヲ密ニシ諸般ノ方策ヲ考究實施シ其ノ職責ノ達成ニ萬  
邊算ヲキテ期セラレタシ。

尙治安ノ觀點ニ於テ留意スベキ國內諸般ノ情勢ニ關スル見透及諸種  
ノ思想的、政治的運動ノ具體的狀況ト之ニ對處スベキ一般原則的方  
策ニ關シテハ別ニ治安對策要綱ヲ添付セルヲ以テ貴管内ニ於タル治  
安維持ノ方策ニ關シテモ右ヲ基準トシテ御考慮相成様致度

追テ參考ニ資スル爲明治三十八年ノ所謂日比谷燒打事件及大正七  
年ノ富山縣下ニ於ケル所謂米騒動事件ニ關スル記録ヲ添付仕候



別添(一)

治安對策要綱

第一、當面セル社會情勢ノ見透

戰時下社會情勢ノ動向ハ基本的ニハ事變ノ推移ト相表裏スルコトハ勿論ナルモ特ニ來ルベキ漢口攻略前後ニ於テハ其ノ軍事的、思想的、政治的、國際的影響ノ甚大ナルモノアルヲ以テ治安維持ノ觀點ヨリスルモ極メテ注意ヲ要スル情勢ヲ孕ムベキ見透ナリ。

現在ニ於ケル諸般ノ情報ヲ綜合判斷スルニ此ノ時期ニ於ケル治安ノ觀點ヨリスル社會情勢ノ重點ハ概ネ左ノ如キモノト觀測セララル。

一、漢口攻略前後ニ於テ事變一切ヲ打切ラントシコレガ爲國民政府トノ妥協、英、佛等從來國民政府ヲ援助シ來レル第三國ノ調停斡旋ヲ策スル一部ノ運動ノ擡頭スル可能性存スルコト

二、共產主義、自由主義、帝國主義等ヲ排撃スル思想的或ハ政治的主張ニ基キ更ニ戰爭ノ進展ヲ圖リ、國民政府トノ妥協ニ反對スルハ固ヨリ、進ンデ或ハソ聯邦ニ對シ或ハ英國等ニ對シ戰端



スラ開クベシトスル執拗果敢ナル運動ノ益々強化擴大サルル可能性存スルコト

三、事變ニ即應スル戰時財政經濟ノ強化ノ必要ニ伴ヒ經濟變構ヲ

根本的ニ改革セントスル運動ノ激化スル可能性存スルコト

四、經濟統制強化ニ伴ヒ直接ニ最モ大ナル犠牲ヲ蒙ル中小商工業者、勤勞者並ニ物價騰貴等ニ伴ヒ勞働農民層ヲ始メ廣ク國民一般層ノ生活ノ窮迫ニ因ル不平不滿ノ自然發生的爆發ノ危險性存スルコト

五、敍上ノ如キ情勢ニ乘ジテ跳梁セントスル共產主義的乃至ハ人民戰線的、反戰的策動ト或種ノ政治的意圖ヲ以テスル作爲的宣傳煽動ノ横行スル虞アルコト

即チ

第一ノ和平工作ニ關シテハ既ニ「政府及軍ノ一部ニ於テ具體的運動行ハレツツアリ」トノ說巷間ニ流布セラレツツアリ之ニ對シ、

2



スラ開クベシトスル執拗果敢ナル運動ノ益々強化擴大サルル可能  
能性存スルコト

三、事變ニ即應スル戰時財政經濟ノ強化ノ必要ニ伴ヒ經濟機構ヲ

根本的ニ改革セントスル運動ノ激化スル可能性存スルコト

四、經濟統制強化ニ伴ヒ直接ニ最モ大ナル犠牲ヲ蒙ル中小商工業者、勤勞者立ニ物價騰貴等ニ伴ヒ勞働農民層ヲ始メ廣ク國民一般層ノ生活ノ窮迫ニ因ル不平不滿ノ自然發生的爆發ノ危險性存スルコト

五、絛上ノ如キ情勢ニ乘ジテ跳梁セントスル共產主義的乃至ハ人民戰線的、反戰的策動ト或種ノ政治的意圖ヲ以テスル作爲的宣傳煽動ノ横行スル虞アルコト

即チ

第一ノ和平工作ニ關シテハ既ニ「政府及軍ノ一部ニ於テ具體的運動行ハレツツアリ」トノ說巷間ニ流布セラレツツアリ之ニ對シ、

2



一親英的上層部及財閥方面ニ於テハ好機至レリトシテ其ノ潮流ニ便乘シ以テ和平雰圍氣ノ醸成ニ努メントシツツアリトノ情報亦諷カラズ其動向ハ嚴ニ注意ヲ要ス。

第二ニ本年一月十六日ノ政府聲明以來今次聖戰ノ道義的意義ヲ文字並リ解釋シ實踐シツツアル純眞ナル國民層ハ以上ノ如キ所謂妥協方策又ハ策動ニ對シテハ必ズヤ意外ナルモノトシテ甚大ナル不滿ヲ藏スルニ至ルベク、又所謂革新的分子ニアリテハ正ニ之レ親英的重臣層ノ畫策セルモノトシテ猛烈果敢ナル反對行動ニ出デ時ニ或ハ非合法手段ニ出ヅル虞アリテ治安上最モ警戒ヲ要ス就中宇垣外相ニ對シテハ既ニ其就任當初ヨリ之ヲ快シトセザル方面相當ニアリ、更ニ最近ニハ和平工作當面ノ中心人物ト目シ居ル實情ニ鑑ミ場合ニヨレバ直接行動ヲスラ誘發スルノ危險性ヲ包藏シ居レリ。

第三ニ事變發生以來革新部層ニアリテハ逸早ク戰時体制ノ確立ヲ



強調シタルガ、現ニ當局ニヨリテ行ハレツツアル經濟統制ノ實情ニ對シテハ之ヲ以テ「所謂偽裝的戰時體制ニシテ徒ラニ中小商工業者ノモニ犧牲ヲ負擔セシメツツアルノミナラズ今ニシテ經濟機構ノ根本的革新ヲ期スルニ非ザレバ皇國ノ前途ハ眞ニ憂慮スベキモノアルヲ以テ速カニ根本塞源的改革ヲ強行スベシ」トノ主張ハ日ト共ニ漸次濃化セントシツツアリ、加之革新部層ニアリテハ更ニ「當面ノ責任者タル池田藏相ハ宇垣外相ト共ニ現狀維持的金融資本家ノ代辯者的地位ヲ固執シツツアリ」トシテ相當ノ反感ヲ激成シツツアル事實モ特ニ注目ヲ要ス

第四ニ戰爭ノ新段階ニ即應スベク新ニ樹立セラレタル物資動員計畫ニ基ク各種物資ノ統制ハ目下日ヲ追ヒ實施中ノ處之ガ統制ハ將來益々強化ノ必要ヲ生ズルト共ニ其ノ統制モ次第ニ廣範圍ニ及ブモノト思料セラレ其ノ結果ハ國內一部產業ノ跛行的股賑ヲ招來スルト共ニ中小商工業者並從業員中國策ノ犧牲トナリ生活ノ根底ヲ



大フモノ次第ニ其ノ數ヲ加フルニ至ルベク又生活必需品ノ制限ト  
物價ノ昂騰ニ因ル經濟的窮迫ハ勞働農民層ノミナラズ全國民ニ波  
及深刻化スルノ傾向ニ在リ斯カル一般國民層ハ爲政者ノ言ヲ信ジ  
偏ニ戰戰目的達成ノ爲メ凡ユル窮乏ヲ克服忍耐シツツアルモノニ  
シテ和平問題ノ取扱ノ如何ニヨリテハ自然發生的乃至一部陰謀家  
ノ煽動ニ因リ不滿爆發シ群衆蜂起等ノ不祥事ヲ惹起スル危險  
トモスルニ注意ヲ要スルモノアリ

第五ニ歸還將兵、出征及戰死者遺家族並事變ニヨリ直接間接ノ擾  
害トナリタル部層ノ事變ノ推移ニ對スル關心ハヨリ深刻眞劍ナル  
モノアルヲ以テ常ニ慰藉的心構ヲ保持スルヲ要スルハ勿論ナルモ  
其ノ動向ニハ相當ノ注意ヲ必要トス

最後ニ以上ノ如キ客觀的諸狀勢ノ下ニ極左一派ハ漸次尖銳分子ヲ  
獲得シテ各種ノ團體ニ潛入シ一般勤勞大衆ノ當面スル生活上ノ具  
体的要求ニ便乘シテ反戰反軍ノ思想ヲ宣傳煽動シ以テ人民戰線運



動ノ展開ヲ圖リ戰爭ヲ内亂ニ導キテ一舉ニ不逞目的ノ達成ヲ期セ  
ントシツツアリ之等ノ分子ノ策動ニ對シテハ最モ深甚ナル警戒ヲ  
要スルハ勿論ナルガ他面自由主義者、民主主義者、公式的人道主  
義者等ノ戰爭反對乃至回避的言論ニ就テモ之ガ一般民心ニ及ボス  
影響ノ深大ナルモノアルヲ考慮シ特ニ注意警戒ヲ行フノ必要アリ  
敍上ノ如ク現下ノ諸情勢ハ凡ユル部面ニ於テ極メテ憂慮スベキ胚  
子ヲ潛メ漢口攻略前後ニハ一齊ニ表面化セントスルノ態勢ヲ示シ  
治安上最モ注意ヲ要スルノ事態ニ當面スルモノト思料セララル。



第三 當面セル治安維持ノ根本方針

戰時下ニ於ケル當面ノ治安確保ノ爲ニ最モ重要ナルハ警察官自身ニ對シ皇謨翼贊捨身奉公ノ熱意ヲ抱カシムルト共ニ萬難ヲ排除シテ事ニ當ルノ不屈不撓ノ決意ヲ固メシムルコト及内外情勢ノ推移ニ對スル透徹セル判斷ヲ得シムルコトヲ以テ第一義トシ治安警察ノ實施ニ當リテハ民衆ニ接觸スル凡ユル場合ヲ利用シテ聖戰ノ意義目的ヲ懇篤說示シテ皇國民トシテノ滅私報國ノ決意ヲ固メシムル様指導スルト共ニ直接間接國策ノ犠牲トナリタル部層即チ治安上憂慮スベキ素因トナル虞アル方面ニ對シテハ、關係方面ト緊密ナル連絡ノ下ニ適切ナル措置ヲ講ジ、物心兩方面共誠意ヲ披瀝シテ協力ヲ惜シマザル様格段ノ努力ヲ竭フベク而モ治安ノ障害トナルベキ對象ニ對シテハ周匝ナル觀察内偵ヲ遂ゲ事端ノ未然防止ニ全力ヲ傾注シ、萬一ニモ事端ノ發生スルガ如キ場合ハ之ガ擴大防止ノ爲ニハ斷乎タル制壓ヲ加フル等臨機ノ措置ヲ講ジ、以テ事變







第三 各種運動狀勢及其ノ取締方針

一 國家主義運動

(一) 主要ナル民間革新團體分子ノ動向

(1) 直心道場及純協系分子ノ動靜

右系統分子ニアリテハ「現下ノ爲政者ノ態度、經濟統制ノ狀況ニテハ今秋頃ニハ我國ハ財政的破綻ヲ來シ國民ヲシテ生活不安ノ絶頂ニ置クハ必然ナリ。事變ノ解決ト國內ノ革新ハ一元的ニ考フベキテ國內ノ政治的、經濟的革新整備ヲクシテ事變ノ有終ノ美ヲ望ムコトハ絶對ニ不可能ナリ」ト爲シ、萬一ノ場合ニ備フル爲ト稱シ最近東京ニ中央事務局ヲ設置シ全國ニ尖銳分子ヲ長トスル地區書記局ヲ設置スル等陣容ノ整備ニ努メ活潑ナル運動ヲ開始スルニ至リ其ノ動向ハ注意ヲ要スルモノアリ

(2) 紫山塾本間憲一郎ヲ圍繞スル一派ノ動靜



紫山塾本間憲一郎ハ客年八月假出獄以來靜養ノ傍ラ神兵隊  
前田虎雄一派ト交渉ヲ持ツニ至リ三月以降五・一五、血盟  
團專件關係者等同志トノ連絡ニ努メ常ニ其ノ結束ヲ圖リツ  
ツアル外本間、前田兩名ハ相前後シテ連絡及資金獲得ヲ目  
的ニ再三渡支スル等種々畫策シツツアル外最近二、三軍人  
トノ往來モアルヤノ趣ナルヲ以テ今後本間、前田ヲ圍繞ス  
ル分子ノ動向ハ注意ヲ要スルモノアリ

(3) 神兵隊專件關係者ノ動靜

神兵隊專件ハ目下大審院ニ於テ公判續開中ニテ漸ク事實審  
理ニ入りタルカ如キモ天野ノ徹底シタル皇道論ハ常ニ裁判  
官檢察トノ正面衝突ヲ來シツツアリ最近ハ天野、前田兩派  
ノ諒解モ一應成リ從來ニ比シ結束ヲ固メ居ル實情等ニ鑑ミ  
今後公判ノ雲行、判決ノ結果如何ニヨリテハ何時不軌ヲ敢  
行スルヤモ難計又首腦者中ニハ先般ノ内閣改造特ニ字垣外



相ノ就任等ニ付テモ強硬ナル反對的意見ヲ抱キ居ルヲ以テ  
今後和平問題ノ表面化等ニ伴ヒ何等カノ行動ニ出ヅル虞ア  
リ依然此一派ハ警戒ヲ要ス。

(4) 北、西田等叛亂事件關係者ノ殘黨一派ノ動靜

岩田富美夫一派ハ現地トノ往來頻繁ナルノミナラズ、赤澤  
良一一派ハ純協系地方尖銳分子トノ連絡成リタル模様ナル  
ヲ以テ漸次活潑ナル行動ニ出ヅルヲ豫想セラレ依然注意ヲ  
要ス。

(5) 愛同、瑞穂俱樂部

愛國勞働農民同志會ハ其組織ヲ中央集權的ニ變改セントシ  
ツツアルモ未ダ各地共遲々トシテ進行セズ、小林順一郎モ  
最近殆ンド熱意ヲ喪失シアルヤニ看取サレツツアリタリ。  
然レ共最近ニ於テ眞ノ經濟戰ハ現在ノ經濟機構改革ヲ先決  
トスル趣旨ノ論文ヲ機關誌等ニ掲ゲ漸ク其運動方向ノ片鱗



ヲ示シツツアルハ注視ノ要アリ。

(6) 大日本生産黨

黨内神兵隊事件關係者ヲ中心トスル青年分子ノ行動ハ依然トシテ活潑ナルモノアリテ、之等ハ所謂青年運動ノ先鋒、中核的存在ヲ爲シツツアルノ外、過激ノ言動ヲ弄シ、特ニ奇矯（星井ノ催涙瓦斯撒布）特異（銃後農民大會）ノ行動ニ出ズルコトアルヲ以テ之等ノ動向ハ依然注意ヲ要ス。

(7) 大日本青年黨

橋本統領出征後建川統領代理ノ指導下ニ盛ンニ組織擴大運動ニ努メツツアリテ、現地ヨリ統領ノ激勵通信、又最近ニ於テハ茨城縣下ニ於ケル小學校教員獲得問題、或ハ歸還兵ニ對スル觸手等注意スベキモノアリ。

(8) 對外硬運動ノ現況

支那事變發生以來對英強硬外交ヲ要望スル聲ハ各方面ニ擡



頭シ特ニ舊臘南京攻略ノ前後ニ於テハ最高潮ニ達シタルモ  
其後稍沈衰ノ情勢ヲ呈シタリ。然ルニ最近ニ於テ所謂和平  
工作問題ニ纏綿シテ亦復排英運動勃興ノ氣運ヲ醸成シツ、  
アリ。而シテ其目標ハ即時廣東攻略ノ熾烈ナル要望トシテ  
顯現シ苟モ國內ニ於テ妥協的空氣ニ乘ズルガ如キモノアラ  
バ聖戰ノ眞義ニ悖逆スルモノトシテ直チニ覆滅スベシトノ  
氣運ヲ孕ミツ、アリ

又、對蘇問題ニ關シテハ在京建國會ヲ中心ニ常ニ強硬運動  
ノ展開サレツツアル所ナルガ張鼓峰事件ノ發生ハ一層之ニ  
拍車ヲ加ヘツツアリ。

(9) 財閥ニ對スル反感

事變發生以來梟軍ノ奮戰及銃後國民ノ忍苦ニ比シテ財閥上  
層部ノ無反省的態度ヲ是正スベシトノ聲ハ歸還將兵等ニヨ  
リ旺ニ論ゼラレツツアル所ナルガ革新部層ニアリテモ漸ク



此運動ヲ開始シツツアリ就中小林順一郎ノ最近ノ態度ハ同人ガ革新部層一部ノ指導的地位ニアルニ鑑ミ今後ノ動向ハ注意ヲ要スベシ

(10) 現地往來ノ革新分子

事變發生以來革新分子ノ渡支スル者激増シ視察ノ爲往來スル者ニ至リテハ既ニ五〇〇名ヲ越ユルノ實狀ニアリ。之等ハ親シク現地ノ實情ニ接シテ新タナル感激ノ下ニ一層國內諸運動ニ邁進シツツアルノ外、中ニハ現地急進分子ト内地急進分子トノ連絡的役割ヲ爲シツツアルモノアルガ如シ。又現地ニ於テ宣撫工作ニ從事シツツアル分子等ニアリテハ新支那建設ノ眞ニ容易ナラザルヲ一層深刻ニ味ヒツツアリテ内地歸還ニ際シテハ現地の感情ヲ以テ諸種ノ問題ヲ提示シツツアリ

(11) 軍内情勢



此運動ヲ開始シツツアリ就中小林順一郎ノ最近ノ態度ハ同人ガ革新部層一部ノ指導的地位ニアルニ鑑ミ今後ノ動向ハ注意ヲ要スベシ

(10) 現地往來ノ革新分子

事變發生以來革新分子ノ渡支スル者激増シ視察ノ爲往來スル者ニ至リテハ既ニ五〇〇名ヲ越ユルノ實狀ニアリ。之等ハ親シク現地ノ實情ニ接シテ新タナル感激ノ下ニ一層國內諸運動ニ邁進シツツアルノ外、中ニハ現地急進分子ト内地急進分子トノ連絡的役割ヲ爲シツツアルモノアルガ如シ。又現地ニ於テ宣撫工作ニ從事シツツアル分子等ニアリテハ新支那建設ノ眞ニ容易ナラザルヲ一層深刻ニ味ヒツツアリテ内地歸還ニ際シテハ現地の感情ヲ以テ諸種ノ問題ヲ提示シツツアリ

(11) 軍内情勢



板垣陸相ノ下ニ過般部内ノ異動ヲ斷行サレタル所ナルガ右  
異動ハ劃期的人專トシテ各方面ヨリ好評ヲ博シツツアリト  
雖モ、其反面極メテ一部ニ不滿アルヤノ趣キナルヲ以テ尙  
相當注意ヲ要スルモノト思料セララル

(二)

事端ノ豫想形態

戰時戰後ノ人心動搖ニ乘ジ、當局ニ對スル非難ノ高調、及國  
民感情ノ激成スル所、些々タル刺戟ニヨリ恐ルベキ結果ヲ招  
來スルノ虞ナシトセズ、今之等事態ヲ想定スレバ凡ソ次ノ如  
キ形態ヲ採ルニ至ルベシ。

(1) 個人的直接行動

(イ) 血盟團の一人一殺行動

(ロ) 革新分子ノ單獨行動

(ハ) 警察視線外ノ人物ニヨル突發行動

(2) 集團的直接行動



- (1) 五・一五事件ノ如ク軍民一体トナリテ決行サル、モノ
  - (ロ) 叛亂事件ノ如ク軍ヲ主体トスルモノ
  - (ハ) 神兵隊事件ノ如ク民間革新分子ニヨリ決行サル、モノ
- (3) 騷擾

- (イ) 革新團體又ハ革新分子ノ指導ニヨルモノ
- (ロ) 或種ノ政治的意圖ニ基ク指導ニヨルモノ
- (ハ) 國民的感情ヲ煽動シテ發生セシムルモノ
- (ニ) 全ク自然發生的ノモノ

(4) 大衆運動

- (イ) 請願、陳情、上申等
- (ロ) 團體的示威ノ爲ニ行ハルルモノ

(イ) 取締方針

- (1) 言論並ニ出版物
- (イ) 對英、ソ問題



將來別個ノ指示ナキ限り一般取締標準ニ依ルノ外特ニ制限セズ

(ロ) 和平問題

國民ニ和平氣運ヲ醸成セシメ又ハ國內ニ和平策動アルヤニ宣傳シ徒ニ國民ヲ刺戟スルガ如キモノハ嚴重取締ヲ爲スコト

例ヘバ

(1) 關内、軍部、重臣、政界、財界其ノ他一般民間ニ於テ蔣政權ニ對スル和平ノ氣運アリト爲スガ如キ事項

(2) 我ガ政府ニ於テ對支根本方針「國民政府ヲ相手ニセズ」ヲ緩和セントスルヤノ意向アルヤニ誤信セシムルガ如キ事項

(3) 我ガ政府又ハ外交當局ニ於テ蔣政權ニ對スル和平工作ヲ畫策シツツアルヤノ印象ヲ與フルガ如キ事項



(4) 第三國側ニ於ケル日支和平交渉ノ斡旋氣運ヲ誇大ニ宣傳又ハ報道スルガ如キ事項

(5) 漢口攻略ヲ以テ軍事目的略々達成シタリトナシ國民ニ樂觀的印象ヲ與フルガ如キ事項

(ハ) 其ノ他左記各項ニ關スルモノハ嚴重取締ヲ爲スコト

(1) 我國ノ對支根本方針ニ關シ政府部内又ハ軍部内ニ意見ノ對立相剋アリト爲スガ如キ事項

(2) 戰時体制強化ノ爲メ國內改革ノ必須ナルヲ主張スルニ當リ其ノ目的達成ノ爲メ不法又ハ矯激ナル手段ヲ煽動スルガ如キ事項

(3) 我ガ對外政策又ハ事變ノ國民生活ニ及ボス影響等ニ關シ大衆行動ヲ誘發煽動セントスルガ如キ事項

(4) 我國ノ財政的破綻、物資ノ缺乏其ノ他我國ノ弱點ヲ舉示シテ對外的ニ惡影響ヲ招來シ或ハ國民ヲシテ戰爭遂



行能力ニ不安ノ念ヲ生ゼシムルガ如キ事項

(5) 事變ノ國民生活ニ及ボス影響例ヘバ破産、失業状態ノ一面ノミチ誇張シ人心ニ不安ノ念ヲ生ゼシムルガ如キ事項

(6) 國民所得ノ跛行的状態特ニ戰時利得者ノ状態ヲ誇張シ一般國民就中出征將兵並ニ其ノ遺家族ニ不平、不滿ノ念ヲ生ゼシメ延テ反戰的思想ヲ醸成セシムル虞アルガ如キ事項

(7) 時局ニ關シ流言浮説ヲ爲シ人心ヲ惑亂スルガ如キ事項  
集會

(1) 屋外集會ハ之ヲ禁止スルコト

但シ公共團體等ノ計畫ニ基クモノ或ハ之ニ準ジ取扱フチ可トスルモノ等ニ付テハ此限ニ非ズ

(ロ) 臨監ト共ニ速記ヲ附スルハ從來ト同様ナルモ日頃兎角ノ言動アル知名士ニ對シテハ特ニ綿密ナル速記ヲ爲スコト



(3) 多衆運動

(1) 多衆運動ハ之ヲ禁止スルコト

例外事項ハ集會ニ同ジ

(ロ) 單ナル請願、陳情ト雖モ多數上京スルコトハ阻止スルコト

(ハ) 請願書、要請書、陳情等ノ街頭署名モ同様許容セザルコト

(4) 流言蜚語ノ取締

(1) 惡質ナルモノハ嚴罰方針ヲ採ルコト

(ロ) 善意ノモノニ對シテハ誓約書ヲ徵スル等ノ方法ニヨリ戒飭シ反省セシムルニ努ム

(5) 武器、兇器

(1) 此際特ニ現地ヨリ歸來途中者ノ檢索ヲ嚴重ナラシムルコト

(ロ) 武器ノ賣買、讓渡ノ狀況ヲ明確ニナシオクコト



## 三 共產主義運動

### (一) 共產主義運動ノ現況

#### (1) 合法場面ニ於ケル反戰反軍運動（人民戰線運動）

人民戰線運動ハ昭和十一年十二月五日及昭和十二年十二月十五日ノ兩檢舉ニ依リ正統、勞農兩派共一應潰滅シタルガ如キモ、最近コミンテルンノ新方針ハ右ノ檢舉ニ對應シ更ニ一層合法ヲ擬裝シテ、運動ノ推進力タル勞働者及農民ノ鬭争ヲ強メ、一般知識階級、中小商工業者、都市小ブルジョア等ト結合シテ各層ノ統一戰線ヲ作り以テ大衆ノ當面スル切實ナル要求貫徹ノ運動ヲ起シ、漸次之ヲ反戰反軍ニ誘導スベキコトヲ指示シ來リタルヲ以テ、國內左翼殘存分子ハ之ニ呼應シ物資統制ノ結果ニ基ク事業ノ不振、失業者ノ簇出、高物價ニ伴フ勤勞大衆ノ生活脅威等ノ諸問題ヲ繞リ積極的策動ノ機ヲ窺ヒツツアルモノノ如シ



(2) 非合法指導体（共産黨）結成ノ機運

非轉向極左分子ノ間ニ從來ノ人民戰線運動ガ強力廣汎ナル展開ヲ見ルコトナク全ク不成功ニ終リタルハ之ガ推進力タル共産黨ノ勢力ノ潰滅乃至ハ微弱化ニ因由スルモノナリトシ、急速ニ非合法指導体ヲ結成スベキ必要アリトノ氣運擡頭シ、既ニ之ガ組織ノ具体化セルモノアルガ如ク、漸次尖鋭分子ヲ獲得シテ各種ノ団体ニ潛入シ、人民戰線結成ノ中核トナリ、國民中ノ脆弱層ニ對シテ反戰反軍ノ思想ヲ宣傳煽動セントシツツアリ、事變ノ推移ニ伴フ政治、經濟、社會等各般ノ問題ハ之等極左分子跳梁ノ好個ノ舞臺ナリト認めラル

(一) 視察内偵取締

(1) 合法場面ニ於ケル反戰反軍運動（人民戰線運動）

(4) 勞働爭議、小作爭議等ニ對シテハ勿論、其他懇談、陳



情上申ノ如キ平穩ナル方法ニ依ル要求等ニ對シテモ、其ノ背後ニ人民戰線の指導分子ノ介在セザルヤ否ヤ注意スルコト

(ロ) 文化團體、同人雜誌關係者等ハ數次ノ檢舉ノ經驗ニ依リ極メテ平易巧妙ナル表現ヲ以テ共產主義ヲ煽動宣傳シ、人民戰線の氣運ノ醸成ニ努メツツアルヲ以テ、關係分子ノ思想傾向、言動等ニ周匝ナル注意ヲ拂フコト

(ハ) 軍事援護團體、日本主義團體等ハ今後左翼分子ノ利用スル虞アルヲ以テ之等各團體ノ動向ニ對シテモ注意警戒スルコト

(ニ) 團體其ノ他ノ行動ニ對シ人民戰線の運動ノ容疑アリ又ハ人民戰線の運動ニ發展スルノ虞アリト認メラルモノアルトキハ内偵線ヲ確立シ、背後指導分子ノ動靜偵知ニ努ムルコト



- (ホ) 社會大衆黨、全日本勞働總同盟、日本海員組合其ノ他ノ合法團體ハ人民戰線活動ノ好個ノ地盤タルヲ以テ、當該團體ノ發表スル政策方針等ニ對スル下部組織ノ反響狀況ニ注意シ左翼分子ノ發見ニ努ムルコト
- (ハ) 以上ノ外昭和十三年四月十九日警保局保發甲第八號通牒參照取締上遺憾ナキヲ期スルコト
- (2) 非合法指導體（共產黨）結成ノ機運
- (イ) 左翼分子中ノ非轉向者及轉向擬裝者ノ動向ニ就テハ查察内偵ヲ強化スルコト
- (ロ) 非合法グループノ發見ニ努力シ、各グループノ背後關係ニ關シ内偵線ヲ確立スルコト
- (ニ) 海外ヨリノ文書連絡特ニアメリカ共產黨關係宣傳印刷物ニ關シテハ關係官署ト緊密ナル連絡ヲ保持シ、之ガ事前發見ト密偵網ノ破壞ニ努ムルコト



(三) 國際連絡ヲ遮斷スル爲海員中ノ極左分子ノ發見ニ努ムルコト

(四) 非轉向者其ノ他容疑人物ノ支那、滿洲方面トノ連絡ニ注意スルコト

(五) 物資統制ノ結果深刻ナル影響アリタル産業、特ニ皮革、護謨、鐵鋼、綿等ノ關係産業ノ従業員ニ對スル策動ニ注意警戒スルコト



### 三、經濟關係諸運動

戰時体制ノ愈々強化セララルルニ伴ヒ物資其ノ他ノ統制ニ依ル各種民需産業ノ萎靡不振及之ニ基ク失業者ノ簇出、物價ノ騰貴ニ起因スル生活不安ノ増大等幾多經濟上ノ諸問題ハ漸次表面化シ來リ、労働運動、農民運動等直接經濟關係諸運動ヲ深刻激化セシムル虞アルノミナラズ本問題ハ一切ノ他ノ政治思想運動ノ一ノ根底ヲ爲シ治安上相當注意ヲ要スベキ事態ヲ招來シツツアリ

(一) 労働運動、農民運動ニ對スル查察取締

敍上ノ經濟狀勢ニ基キ一時全ク沈滞ノ狀況ニアリタル労働運動モ最近物價ノ騰貴ニ基ク賃銀値上ノ要求等ヲ内容トシ爭議件數逐月累増ノ趨勢ヲ辿リ、特ニ民需産業部門ニアリテハ事業ノ不振ニ伴フ不安ト相俟ツテ治安上重要ナル問題化セントシツツアリ

農民運動ノ分野ニ於テモ勞力畜力ノ不足ニ依ル生産額ノ減少



見透ト農産物價格ノ騰貴ガ一般物價ノ騰勢ニ伴ハザル爲、農村ノ生活モ次第ニ窮乏化ノ虞アリ樂觀ヲ許サザル狀況ニシテ産業組合運動ヲ中心トスル農村革新運動ノ趨向ト關聯シテ注意警戒ヲ要スルモノト思料サル

労働運動及農民運動ノ查察取締上注意スベキ諸點左ノ如シ

(1) 労働運動及農民運動ニ對シテハ常ニ団体幹部ノ言動ニ注意スルハ勿論一般労働者及農民層ノ動向ヲ把握シテ之ニ對處スベキ方策ヲ講ジ爭議ノ未然防止ニ努ムルコト

(2) 労働組合、農民組合等ニ對シテハ從來ノ階級闘争的運動方針ヲ揚棄シ全体主義ニ基ク産業報國ノ精神ヲ基調トセシムル様指導スルコト

(3) 労働爭議、小作爭議等發生ノ場合ハ當事者双方ニ對シ戰時下銃後治安ノ重大性ヲ說示シテ互讓ノ精神ニ基キ適正妥當ナル解決ヲ圖ラシムルコト



(4) 紛議ヲ利用シテ組合組織ノ擴大ヲ企圖シ又ハ不純ナル動

機ニ基ク争議等ハ之ヲ制壓スルコト

(二) 經濟統制ノ結果ニ依ル離職失業問題等ニ關スル對策ノ樹立

今次ノ經濟統制實施ニ基ク事業ノ休廢止、操短並離業失業等ノ問題ハ全ク戰爭目的達成ノ爲國策遂行上止ムヲ得ザル犠牲ニシテ之ガ措置對策ニ關シ一步ヲ誤ランカ重大ナル結果ヲ誘發スルノ虞アリ

之等ノ部層ニ對シテハ徒ニ政府ニ依頼スルノ念ヲ抱クコトナク國策ニ順應シ進ンテ積極的ニ新生面ヲ開拓スルノ氣慨ヲ保持セシムベク懲滯スルヲ要スルハ勿論ナルガ、常ニ親愛ノ態度ヲ以テ之ニ接シ迅速適切ナル方策ヲ樹立實施スルノ必要アリ

(三) 一般國民大衆ノ動向ニ對スル關心

以上ノ外物價ノ騰勢及物資ノ不足等ニ對スル一般國民ノ不安



ハ治安上輕視スベカラザル問題ニシテ、更ニ今後萬一廣範圍  
物價ノ昂騰ヲ見ルガ如キコトアラシカ、生活上ノ窮迫ニ基ク  
國民ノ不平ハ民需産業ニ對スル中小商工業者ノ不平不滿ト相  
俟ツテ不測ノ事端ヲ生ゼザルヲ期シ難シ、即チ部民ニ對シテ  
ハ今次事變ノ本質ト内外時局ノ重大性ヲ認識セシメ困苦缺乏  
ニ堪ユルノ念ヲ養ハシムルト共ニ他面各方面ノ意嚮ヲ聽取シ  
テ下意ノ上達ヲ圖リ常ニ民心ノ動向ヲ把握シ居ルノ必要アリ



#### 四 民族主義運動

今次事變ノ進展ニ伴ヒ朝鮮人及臺灣人ノ動向ハ未ダ會テ見ザル  
好轉ヲ爲シタリト雖モ今尙依然トシテ民族的意識濃厚ナルモノ  
勘カラズ殊ニ海外不逞鮮人ハ蔣政權及中國共產黨ノ援助ヲ得テ  
反滿抗日運動ニ合流シ内地ニ潛入シテ不逞ノ行動ニ出デントシ  
ツツアリ之等徒輩ノ策動ヲ未然ニ防止スル爲海港警備ヲ嚴ニシ  
鮮臺人特ニ新規轉入者ノ言動ヲ内査シテ不逞分子ノ發見ニ努力  
スルノ必要アリ



別添(一)

第一 日比谷燒打事件

一、發生年月日

明治三十八年九月五日

二、發生原因

(1) 日露媾和ノ條項ニ憤慨反對ノ意思表明ノ國民大會開催

(九月五日午後一時開會)

(2) 警視廳ノ事前措置

九月五日朝警視廳ハ發起人中ノ某(高橋秀臣)ヲ呼出集會禁止命令ヲ傳ヘタルモ某ハ責任者ニアラザルノ故ヲ以テ之ニ應ゼズ故ニ止ムナク會場ノ閉鎖ヲ爲スコト、シ公園四方ノ入口ニ杉丸太ノ柵ヲ設ケ入園禁止ノ措置ヲトリタリ

(3) 東京市長ノ反對措置

右警視廳ノ措置ニ對シ當日東京市ハ參事會々議中ナリシガ右ノ報告ニ依リ市長尾崎行雄ハ直チニ内務大臣ヲ訪問一警視廳ガ市ノ公園ヲ閉鎖セルハ其ノ命令ナルヤ否ヤヲ詰問シタル所一與リ



知ラズトノ回答ニヨリ更ニ助役渡邊勘十郎ヲシテ警視總監ヲ  
訪問セシメタル所一市ニ諮ラザリシ手續ノ遺漏ハ謝スルモ治安  
維持ノ緊急措置トシテ取りタル手段ナリト閉鎖取除ノ需ニ應  
ゼザリシ爲市參事會員等ハ現場ニ急行警察官ノ制止ヲ肯ゼズ木  
柵ヲ撤去セリ

### 三、騷擾事件概要

#### (1) 發端

正午前ヨリ三菱ヶ原ニ雲集セル群衆約四、五万ハ警官隊約百名  
ニテ警備セル日比谷正門ニ入場ノ爲押寄せ砂礫ヲ飛ハシ旗ヲ振  
リ罵聲ヲ擧ゲツ、之ヲ突破シ阻止セントスル警官隊ト亂闘ヲ演  
ジ兩者共數名ノ負傷者ヲ出シタリ

#### (2) 國民大會狀況

園内ハ案外靜肅ニ午後一時一發ノ煙火ヲ期トシテ開會シ前衆議  
院議長河野廣中開會ヲ宣シ前司法次官山田喜之助ニ通ノ決議案  
ヲ朗讀ス



決議案(一) (滿洲各軍ニ打電スルモノ)

吾人ハ舉國一致必ラズ屈辱條約ヲ破棄センコトヲ期ス  
吾人ハ我ガ出征軍ガ驀然奮進以テ敵軍ヲ粉碎センコトヲ熱望  
ス

決議案(二) (樞密顧問官ニ送ルモノ)

今日ノ事復タ言フニ忍ビザルナリ吾人ハ樞密顧問官諸氏ガ最  
後ノ一斷ヲ以テ日露和約批准ノ拒絕ヲ奏上シ國家ヲ一大危急  
ヨリ救ヒ出サンコトヲ熱望ス

右二案共沸クガ如キ熱叫ノ間ニ可決セラレテ閉會シタルガ民衆  
ハ二手ニ別レ一團ハ宮城前ニ一團ハ豫定ノ新富座ノ大演說會場  
ニ向ヒタリ

参考 會場ノスローガンノ旗

(イ) 赤誠動天地

(ロ) 肝膽一劍寒

(ハ) 風蕭々兮易水寒



(二) 億兆一心

(ホ) 泣いて至尊に訴ふ

(5) 新富座ノ演說會狀況

右國民大會ハ日比谷終了後新富座ニ演說會ヲ開キ最後ニ懇親會ヲ催ス計畫ニアリタリ

斯クテ新富座ノ演說會ニ列セントスル群集ハ正午頃ヨリ押寄せ所轄京橋署長ハ其ノ講談論議セラルベキ旨諭ノ不穩ナルベキヲ豫想シ多數警官ヲ現場ニ配置シ午後一時半頃滿員ト稱シテ入口ヲ閉鎖シタル爲築地一丁目ヨリ會場ニ至ル道路ニハ群集充滿シタルノミナラズ日比谷ノ大會ヨリ會場ニ向ヒタル群集ト合流シテ忽チ喧騒轟々トシテ押合ヒ入口ニ殺倒セリ

絛上ノ狀勢ニ依リ京橋署長田川警視ハ開會定刻(午後二時二十分過)演說會ノ解散ヲ命ジ更ニ有志懇親會ヲ開催スベク殘留セル者ニ對シテモ再ビ解散ヲ命ジタリ

茲ニ於テ司會者及辯士等ハ隣家ナル芝居茶屋新駒屋ノ二階ニ移



リ代議士板倉中ガ樓上ヨリ街頭ノ群集ニ對シ煽動的演説ヲ試ミ  
ントシタルヲ以テ之亦解散ヲ命ズルニ至レリ

敘上ノ狀勢ニ於テ激昂セル群集ハ警察官ニ對シ木石ヲ飛バシテ  
挑戰シ司會者河野廣中、小川平吉、辯護士黒須龍太郎等署長ニ  
對シ其ノ處置ノ不當ノ抗議ヲ爲ス等ノコトアリタルガ事態ハ最  
早收拾スベカラザルノ狀況トナリタリ

(4) 燒打暴行其他

斯クテ禍亂ハ燎原ノ火ノ如ク全市ニ瀰漫シ宮城前ニ於テスラ流  
血ノ慘ヲ見ルニ至レリ

(1) 内相官邸ヲ襲撃セル一群ハ表門ヨリ闖入石礫ヲ飛バシテ建物  
ヲ破壊シ警戒ノ警察官ニ暴行ヲ行ヒ夕刻門衛詰所ニ放火スル  
ニ至リタルガ竹橋兵營ヨリ近衛ノ一ヶ中隊出動ニヨリ辛クモ  
官邸ノ無事ナルヲ得タリ

(2) 曩ニ新富座ノ演說會ニ入場セントシテ果サハリシ一團ハ當時  
政府黨ト目セラレタル國民新聞社ヲ襲撃印刷所及事務室ヲ蹂



購セリ

(ハ)夜ニ入りテ暴徒等ハ市内各警察署、分署、派出所等ヲ襲撃破壊、放火等ノ兇行ノ限リテ盡シ全市ヲ無警察ノ状態ニ陥レタリ

斯クテ更ニ彼等ハ五方面ニ分レ大八車ニ石油木片等ヲ積載シ

其ノ一ハ麴町方面ヨリ四谷新宿方面ニ

其ノ二ハ青山、三田、麻布方面ニ

其ノ三ハ京橋區一圓ヲ燒キ警視廳ヲ襲撃シ

其ノ四ハ日本橋ヨリ深川本所方面ニ入り

其ノ五ハ神田ヨリ下谷、本郷、小石川方面ニ

夫々燒打暴行ヲ爲スニ至リタルガ警察力ハ之ヲ鎮壓スルノ餘力ナク翌朝ニ至ル迄全市ハ盡ク修羅ノ街ト化シ闇黒ノ東京ヲ現出セリ

(ニ)翌六日、夜來ノ暴動ニ全市ノ派出所ハ過半燒却セラレ深川、下谷ノ各警察署マデ燒却ノ厄ニ會フニ至リ警察官ノ負傷スル



者モ亦夥シキ數ニ上リ人心恟々トシテ禍亂ノ前途測リ知レザ  
ルノ不安ニ陷レルニ至リタリ  
斯クテ午後ニ入り暴徒ハ再ビ内相官邸、外務省ノ襲撃ヲ行ヒ  
タルモ軍隊ノ警戒ニヨリ其ノ目的ヲ果サズ而シナガラ彼等ノ  
餘憤ハ日比谷公園外ニ於テ市電ヲ停メ車掌運轉手ヲ引キ下シ  
悲鳴ヲ擧グル乘客ヲ其儘車台ニ放火シテ十餘臺ヲ燒棄シ更ニ  
三宅坂ニ於テハ停留セル電車ニ放火シ「ハン」ル「」ヲ放チ火  
ノ車ヲ走ラセテ快哉ヲ叫ブ等ノ暴舉ニ出デルニ至レリ  
(ホ)六日夜ノ暴動ハ更ニ前夜ニ勝ルモノアリ即チ築地一、二丁目  
ノ各派出所ヲ燒キ下谷教會、明星教會（竹町）其ノ他基督教  
會ヲ燒破シ或ハ警察署ノ襲撃ヲ爲ス等全ク暴虐ノ限リヲ盡セ  
リ

(B) 事前計畫

政府筋ノ觀察トシテハ行動ノ進退ニ秩序アリ全市ニ亘リ一致ノ  
行動手段ニ出デタル點數千名ノ暴徒ガ同一ノ辨當ヲ用ヒ或ハ部



署ヲ分チテ進退スルナドヨリシテ計畫的ノ行動ナルベク何者カ  
豫メ巧ニ諸般ノ準備ヲ極秘ニ進メ居リタルヤニ非ザリシヤ

#### 四 事件ノ收拾

事態ノ擴大ニ鑑ミ六日、長時間ニ亘ル樞密顧問會議並ニ重要閣議  
トチ開催シタル結果戒嚴令ノ一部ヲ適用シ急速ナル收拾ヲ行フコ  
トニ一決シ同日夜深更ニ至リ官報號外ヲ發行之ヲ公布セリ

而シテ右適用ノ範圍ハ東京市及荏原、豊多摩、北豊島、南足立、  
南葛飾ノ一市五郡ニアリタリ

之ト同時ニ軍ニ於テハ騎兵ヲシテ憲兵ノ勤務ヲ補助セシメルコト  
トシタル外新聞雜誌取締法ヲ定メ各法令ハ何レモ即日施行セラレ  
更ニ東京衛戍總督佐久間左馬太子爵ハ翌七日一般人民ニ對スル告  
諭ヲ發シ人心ノ安定ヲ策スル所アリ右戒嚴令ノ適用ニ依リ漸次沈  
靜ニ歸スルニ至リタリ

#### 五 被害狀況

##### (1) 警察側



(1) 重輕傷者 五〇八名

内譯

警視 六 警部 二六 巡查 四二八

消防手其他四五 警察書記 一 憲兵兵士 二

(2) 一般民衆

(1) 重輕傷者

(2) 一般民衆 五八七名

(3) 物的被害

(1) 燒却セラレタルモノ

(2) 死亡者 五名

警察署 二 同分署 六 派出所 一一八

教會堂 三 民家 四七

電車 一五

(3) 毀壞セラレタルモノ

巡查派出所 二七 蒸汽ポンプ 一



六首謀者等ノ措置

首謀者ト目セラル、河野廣中、大竹貫一、小川平吉、櫻井熊太郎、  
佃信夫ノ五名ハ十一月一日東京地方裁判所ノ重罪公判ニ（兇徒聚衆

被告事件）

吉澤不二雄 丸山泰次郎 新里兵吉

山崎政藏 山中茂市 君島竹次郎

佐々木甫 間宮金太郎 金子與吉

川又金次郎

予同輕罪公判ニ

山田喜之助 畑野次郎 齋藤久次郎

小山芳松 大畑子之助 榊原駒吉

井上淺吉 中島榮次郎

ヲ放免ス (以上豫審終結決定書ヨリ)

爾來公判ヲ重ナルコト十二回翌明治三十九年四月二十一日ノ第十二  
回公判ニ於テ河野以下十二名ハ無罪佃以下三名ハ公訴不受理ノ決定



ニ依リ何レモ放免トナリタリ

ヲ責任者ノ引責

前記騷擾事件ノ鎮靜後内務大臣芳川顯正、警視總監安立綱之ハ引責  
辭職シ麴町警察署長向田幸藏ハ朝鮮ニ轉任トナリタリ



勅令第二〇七號

戒嚴令適用ノ件

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條ニ依リ東京府内一定ノ地域ニ戒嚴令中必要ノ規定ヲ適用スルノ件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十八年九月六日 大正 臣 副 署



告 諭

明治三十八年九月七日

今回勅令第二〇七號ニ依リ本職ハ東京市及其ノ附近ノ騷擾ヲ鎮メ靜謐  
ヲ保ツノ權ヲ委セラレタリ本日迄ノ情態ヲ見ルニ多數ノ者各所ニ集團  
シ數日ニ亘リ官有物或ハ教會堂ヲ燒毀シ交通機關ヲ毀損スル等ノ非舉  
アリ此等ノ所爲タル一時ノ情ニ驅ラレ深ク思ハス斯カル輕舉ニ出テタ  
ルモノト信スト雖今ヤ之カ鎮撫ヲ忽ニスベカラス依テ本職ハ警戒ニ任  
スル軍隊ニ對シ左ノ各項ヲ訓令セリ各人深ク自ラ慎シミ且ツ能ク不弟  
ヲ戒メ事重大トナラサル間ニ於テ速カニ其ノ非行ヲ止メ靜肅ニ復スヘ  
シ又假令非行ヲ企ツル者ニアラサルモ傍觀ノ爲右等騷擾ノ場所ニ蝟集  
シ不測ノ禍ヲ蒙ルコトナカラシムコトヲ要ス

一、言語ヲ以テ先ツ解散ヲ命シ又ハ其ノ非行ヲ制止スヘシ



二、言語ヲ以テスルモ解散又ハ制止ノ命ニ應セサルトキハ空砲ヲ發射シ

警戒ヲ與フヘシ

三、前項ノ方法ニ依ルモ尙解散又ハ制止ノ命ニ應セサルトキハ最後ノ手

段トシ斷然兵器ヲ實用スルコトヲ許ス

東京衛戍總督

子爵

佐久間左馬太



## 第二 米騒動事件

一、發生年月日

大正七年八月五日

二、發生原因

歐洲戰亂ノ波動ハ我國ノ貿易ヲ促進シ諸物價ノ急激ナル昂騰ヲ示シ來リタルガ就中米價ハ暴騰ニ次ク暴騰ヲ以テシ庶民ノ多數ハ憂色アリタルニ不拘一部商家等ハ一面ニ於テ之カ買占ニ依ル不當利得ノ壟斷ヲ目睹スル等ノコトアリ此間亦幾多ノ流言蜚語傳播セラレテ人心ハ極度ニ不安ヲ生シ期セスシテ不穩行動ノ惹起ヲ見ルニ至レリ

三、事件ノ經緯

(1) 發端

本件ノ發端ト目セララル、ハ大正七年八月五日富山縣中新川郡西水橋町ニ發生セル所謂「越中女一揆」ニシテ之等女群約一五〇名ハ富豪等ニ對シ

(1) 米ノ輸出停止



(回)米價引下ゲ

等ヲ嘆願シタルモノニシテ之ト前後シテ同縣下沿海方面漁村、  
下新川郡泊町、生地町、魚津町、中新川郡滑川町、東水橋町、西  
水橋町、上新川郡東岩瀬町、婦負郡四方町、ノ細民婦女等モ同様  
居町役場富豪等ニ對シ嘆願ヲ爲シタルヲ婦女ノ運動ノ物珍ラシキ  
ヲ取上ゲ各新聞ニ好奇的記事トシテ發表セラレタル爲時局ヲ刺戟  
スルコト益々大ニシテ遂ニ全國三府二十五縣下ニ波及シ一大騷擾  
事件ニ轉化スルニ至リタリ

因ミニ富山縣下沿海方面ニ於ケル漁村ノ男子ハ夏季ニ於テハ遠  
ク北海道、樺太カムチャツカ方面ノ漁撈ニ被雇ル、ヲ例トシコ  
ノ期間ハ婦女等ニ於テ家庭生活ノ一切ヲ處理シ來レルノ慣例ニ  
アリテ敢テ異トスルニ足ラサルモノニアリシ所ニシテ新聞ノ誤  
報ガ本件ノ擴大ヲ促進シタルハ否定シ得ザル事實ナル點特ニ注  
意ヲ要スル所ナリト思料ス

(8) 經過



前敘ノ如ク富山縣ニ於ケル米價引下ゲ運動ガ新聞紙ニヨリ「女一揆」等ノ煽情的題名ノ下ニ全國的ニ報道セラレタル爲當時物價騰貴ガ人心ヲ不安ナラシメ特ニ米價ノ奔騰ハ愈々之ニ拍車ヲ加ヘタル折柄ナリシヲ以テ其ノ影響ヲ強ク受ケタルヤニテ爾來全國各地ニ自然發生的ニ擴大激發スルニ及ビ遂ニ之ガ鎮壓ニハ軍隊ノ出動ヲモ見ルニ至レリ而シテコノ事件ニ於テ特ニ兵庫、新潟、神奈川、奈良、和歌山、三重、島根各縣下ニ發生セルモノハソノ代表的ノモノト見ラレ兵庫ヲ除キテハ何レモ上告審ニ迄及ビタリ

註其ノ一 明治年間主要事件判決集九八頁(三)米騒動事件判決及昭和十二年六月九日富山縣警察部長發所請「越中米騒動」ニ關スル記録及協調會編「最近ノ社會運動」輯録ノ「米騒動」中軍隊出動ニ關スル記事參照

其ノ二 協調會編「最近ノ社會運動」ニ輯録ノ「米騒動」中ノ軍隊出動ニ關スル記事



(前略)カ、ル多數ノ人々ヲ鎮靜セシメルニハ到底警察力ノミデハ不可能デアツタ爲メ、暴動ノ起ツタ各府縣デハ軍隊ノ出動ヲ申請シタ。大阪府デ軍隊ノ配置サレタ期間八月十二日ヨリ十七日ニ至ル六日間デ總數九千八百四十四人コレニ憲兵三百七十九名ガ參加シタ

### 其ノ三 警察新報所載

歐洲大戰ノ結果、所謂成金時代ヲ現出シテ物價ノ騰貴ハ底止スル所ヲ知ラズ、米價マタコレニ伴レテ狂騰シタノデ、大正七年八月五日夜富山縣滑川町ノ漁婦五十人ガ地主富豪ニ米ノ廉賣ヲ要求セルニ端ヲ發シ、全國都市ノ群集ガ動キ出シタノデアアル。即チ九日ニハ和歌山湯淺町、名古屋市、廣島縣三次町、古市町、八次町十日ニハ京都市、十一日ニハ大阪市、廣島市、十二日ニハ神戸市京都市等ニ蔓延シ、所在ニ米價問題ニ對スル暴動ガ起ツテ放火掠奪ガ行ハレ、政府ハ新聞記事ノ差止メヲ命ジ、軍隊ヲ出動シテ鎮壓ニ努メタ。其ノ波及セル



所、近畿、中國、四國、九州北部、中部、北陸地方、東京府、  
神奈川、埼玉、宮城、福島ノ諸縣及ビ北海道ニ達シ實ニ一道  
二十四府縣百三市町村デアツタ。コノ事件ノ原因ハ單ニ米價  
騰貴ニヨル生活難ニ止マラズ、成金ノ豪者ニ對スル國民ノ反  
感、社會制度ノ缺陷ニ對スル無意識ノ不滿ガ加ツテ爆發セル  
自然發生的ノ大衆運動デアツタ。二十一日寺内内閣ハ引責辭  
職シ事件ハ比較的短日月ニ解決シタケレドモ、ヤガテ社會問  
題勃興ノ導火線トナツタ。



2.

警保局保發甲第二號

昭和十八年一月十三日

第三係



内務省 警保局長



事務官



警視總監 殿

各廳府縣長官 殿

(東京府知事ヲ除ク)

大東亞戰爭ノ新段階ニ於ケル治安ノ維持ニ關スル件

大東亞戰爭ハ緒戰ノ赫々タル戰果ニ依リ我方ニ戰略的優位ノ態勢ヲ確保スルヲ得タルモ戰爭ハ漸ク本格的段階ニ入り、凄慘熾烈ナル決戰ノ連續ニ依ル長期總力戰ノ様相ヲ示シツツアリ、他面歐洲戰爭ハ獨蘇及獨英戰爭ノ膠着ニ依リ戰況必ラズシモ樂觀ヲ許サズ、今後情



2.

警保局保發甲第二號

昭和十八年一月十三日

内務省 警保局長

第三係



事務官



警視總監 殿

各廳府縣長官 殿

(東京府知事ヲ除ク)

大東亞戰爭ノ新段階ニ於ケル治安ノ維持ニ關スル件

大東亞戰爭ハ緒戰ノ赫々タル戰果ニ依リ我方ニ戰略的優位ノ態勢ヲ確保スルヲ得タルモ戰爭ハ漸ク本格的段階ニ入り、凄慘熾烈ナル決戰ノ連續ニ依ル長期總力戰ノ様相ヲ示シツツアリ、他面歐洲戰爭ハ獨蘇及獨英戰爭ノ膠着ニ依リ戰況必ラズシモ樂觀ヲ許サズ、今後情



勢、推移ニ依リテハ直チニ帝國ノ戰略的地位ニ至大ノ影響ヲ及ボス  
虞アリテ、帝國ハ今ヤ有史以來ノ重大時局ニ直面シツツアルモノト  
思料セラル

而シテ今後逐時ニ敢行セラルベキ決戰ノ要求ヲ充タス爲ニハ、此  
際急速ニ國內諸般ノ体制ヲ整備シテ戰力ノ飛躍的增強ヲ圖ルベキハ  
喫緊ノ要務ナルモ、之ガ爲ニハ國民生活ノ凡有部面ニ亘リテ劃期的  
非常編成替ヲ強行セザルヲ得ザルハ必至ノ勢ニシテ、之ニ關聯スル  
思想的乃至政治的影響極メテ甚大ナルモノアルヲ豫想セラレ、今後  
統後治安ノ維持ハ容易ナラザルモノアリト思料セラル、各位ハ大東  
亞戰爭ノ眞意義ト内外ノ情勢トニ鑑ミ、一段ト部下ヲ督勵シ、關係  
機關ト連絡ヲ密ニシテ國內治安ノ維持ニ留意シ、殊ニ人心ノ指導ニ  
特段ノ努力ヲ致ス等苟モ治安ノ如何ニ依リテ戰爭目的達成ニ些ノ障  
害ヲ來スガ如キコトナカラシムル様萬全ノ策ヲ講ジ、其ノ職責ノ達  
成ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度



尙治安ノ觀點ニ於テ留意スベキ國內諸般ノ情勢ニ關スル見透及一  
般的對處策ニ關シ別ニ治安對策要綱ヲ添付セルガ、本要綱ハ貴管内  
治安維持方策樹立ノ基準トシテ作成セルモノナルヲ以テ此儘部下ニ  
示達スルコトナキ様爲念申添フ



治安對策要綱

第一 當面ノ社會情勢判斷

大東亞戰爭ノ現段階ニ於ケル諸般ノ情報ヲ綜合判斷スルニ治安ノ觀點ヨリスル社會情勢ノ重點ハ概ネ左ノ如キモノト認メラル  
今後ノ社會情勢ヲ動カス因子トシテハ

一 大東亞戰爭ノ戰況ト歐洲戰局ノ推移

二 敵機ノ本土空襲

三 戰時經濟施策ノ推移

四 戰爭ノ長期化ニ伴フ國民ノ疲勞感

五 敵側謀略策動ト國內不穩策動ノ強化

等ニアリト認メラル。即チ

一 目下繼續實施セラレツツアル南太平洋方面（殊ニソロモン海域）ニ於ケル作戰ハ、漸次日米主力ノ決戰ニ發展シツツアリ  
戰局ノ前途ヲ左右スルニ足ル重要ナル會戰ニシテ、之ガ推移ハ



軍事的、政治的、思想的ニ極メテ甚大ナル影響アリ。又歐洲  
戰局ハ蘇聯ノ抗戰力依然強固ナルノミナラズ、英米共同作戰ニ  
ヨル北阿、中亞ノ對獨攻勢アリ戰局必シモ樞軸側ニ樂觀視シ  
得ザル狀況ノ適當分膠着狀態ヲ繼續スルモノト認メラレ、之ガ  
推移ニ依リテハ、直チニ帝國ノ戰略的地位ニ重大ナル脅威ヲ蒙  
ルノミナラズ、國內民心ニ及ボス影響甚大ナルモノアリ。以上  
ノ戰況ニシテ最悪ノ場合ヲ豫想スレバ、緒戰以來ノ國內ニ於ケ  
ル樂觀的氣運ハ反轉シテ戰爭ノ前途ニ對スル極端ナル悲觀論  
ヲ生ジ、延イテハ反政府的策動乃至積極的倒閣運動發生スルノ  
虞アリ。一部ニハ政府ノ外交方針或ハ戰爭指導方針ニ對スル  
種々ナル論議運動ヲ惹起シ、又ハ反戰反軍等敗戰主義的氣運擡  
頭スルノ可能性アリテ、本年上半期ノ國內情勢ハ戰況ノ推移ト  
相表裏シテ治安上極メテ注意警戒ヲ要スルモノアリ。



二、敵機本土空襲ハ昨年四月以來其ノ跡ヲ絶チタルモ、最近敵ハ支那本土並アリユーシヤン方面ニ飛行基地ヲ充實シツツアリトノ情報アルノミナラズ、戦局ノ推移ト相俟ツテ今後敵機ノ執拗ナル本土空襲豫想セララルル處ナルガ、大規模ノ空襲ニ未經驗ナルノミナラズ、對空防禦態勢完全ナラザル國內ノ現狀ニ於テ最悪ノ場合ヲ豫想スルトキハ、各地ニ混亂紛擾發生シ、非常事態ノ惹起ヲ見ルヤモ圖ラレズト思料セラル。

三、銃後戰時經濟体制確立ニ就テノ當面ノ見透ハ愈々多難ニシテ、作戰ノ進展ニ呼應シテ焦眉ノ急務タル重要軍需生産增強對策ニ關スル政府ノ方針施策ニ對シテハ、既ニ國內一般ニ悲觀的乃至批判的空氣現存スル實況ニシテ、今後此種傾向ハ愈々濃化スルモノト認メラレ、此間ニ乘ズル一部政治不滿分子乃至策謀家ノ宣傳、煽動ハ政治的不安動搖乃至軍官民離間機運ヲ激成スル處アルノミナラズ、一部急進分子ニ在リテハ國內經濟体制



ノ確立ヲ阻害スルモノトシテ、重臣財閥等政治上層部ニ對シ直  
接行動ニ出ヅル虞アリ。

四、作戰上ノ要求ニ依ル船舶ノ徵用ノ激増及全戰局ヲ左右スル  
ト思料セラル、昭和十八年度ニ於ケル決戰ニ備フル爲ノ各種  
經濟非常措置ハ、生産原材料乃至消費物資（食糧ヲ含ム）ノ供  
給不圓滑ヲ招來シ、今後重要生産増強維持ノ爲ニハ徹底セル企  
業ノ重點配置及國內物資ノ非常回收ヲ斷行セザルヲ得ザルヲ  
以テ、必然的ニ中小商工業乃至平和産業部層ニ轉業者、離職者  
及失業者激増シ、國民職業構成ハ相當ノ變化ヲ來タスノミナラ  
ズ、一般消費物資ノ不圓滑ト物價ノ高騰トニ依ル國民經濟生活  
ノ逼迫ハ、勞働農民層ノミナラズ全國民ニ波及深刻化スルノ傾  
向ニ在リ。戰局ノ推移ト關聯シ之ニ對スル處置ヲ誤ル時ハ、國  
民ノ不平不滿激化シ、階級對立ヲ惹起シ、各種社會運動擡頭スル  
ノ虞アリ。此點ヨリ見ルモ本年上半期ヨリ下半年期ニ至ル治安



狀勢ハ極メテ警戒ヲ要スルモノアリ。

三 大東亞戰爭ハ愈々本格的段階ニ入り主要作戰ノ大局的進展ヲ終リタル結果、緒戰ニ於ケルガ如キ相次グ赫々タル戰果ハ必ズシモ之ヲ期待シ得ザルノミナラズ、却テゲリラ戰ニ依ル被害ノ發生ハ相當程度ニ達スルモノト考ヘザルヲ待ズ、加之支那事變發生以來滿五年餘ノ長期戰時狀態ヲ繼續シ居ルニ鑒ミ、國內民心ノ底流ニ漸次戰爭ニ對スル疲勞感ヲ生ズル虞アルコトハ否定シ得ザル處ニシテ、斯ル傾向ハ或ハ國民必勝ノ信念ニ離裂ヲ生ジ、或ハ厭戰思想ヲ醸成シ、或ハ人心ヲ狂惑セシムベキ妄誕邪說ノ蠢動スル素地ヲ作り、大衆ヲシテ漸次絶望的氣運ニ導入セシムルノ虞アリ。

六 敵國ノ諜報宣傳活動ハ今後益々強化セララルルハ必至ニシテ殊ニ戰況ノ進展如何ニヨリテハ米英系中立國筋ノ諜報宣傳ヲ一段ト露骨ナラシメ、又窒息セル歐米依存、歐米優越觀念ヲ蘇

5



生セシメテ之ガ好箇ノ温床トナシ。國內不平分子ヲ煽動シテ  
或ハ樞軸離間ヲ策シ、或ハ國內戰時態勢ノ分裂ヲ謀リ、國民ノ戰  
意ヲ沮喪セシメントスルモノト豫想セララル。特ニ生産増強ノ  
爲移入セララル朝鮮人、支那人等ノ出入頻繁トナルニ從ヒ、獨  
立運動或ハ抗日乃至共產主義運動分子ノ潛入ヲ見ルニ至ルベ  
ク、敵側謀略活動ハ之ニ付隨シテ容易トナルハ想像ニ難カラズ  
又左翼分子ハ漸次各種合法分野ニ潛入シ、一般勤勞大衆ノ不平  
不滿ニ乘ジテ反戰反軍的思想ヲ宣傳煽動スル等人民戰線運動  
ノ展開ヲ圖リ、戰爭ヲ内亂ニ導キテ一舉ニ不逞目的達成ヲ期セ  
ント煽動スルモノト判斷セララル。最モ警戒ヲ要スル處ナリ。  
六 最後ニ今後ノ社會運動ノ趨勢トシテ中正健全ナル思想影ヲ  
潛メ、思想的無政府狀態ニ移行スルノ虞多分ニアリトノ見透  
ナリ。即チ極端ナル精神主義ト極端ナル經濟主義トノ離立、  
國體明徴ヲ名トスル奇矯ナル神憑的乃至邪教的思想ノ横行、



左右兩翼思想ノ交錯ニ依ル思想ノ混亂等ガ時局ノ逼迫ト共ニ漸次顯著ナラントスル傾向ニアリ。之ヲ各種運動ノ現狀ニ見ルモ國內諸體制ノ急激ナル變動期ニ際會シテ、之ニ對應スベキ思想的根據又ハ運動方針ニ昏迷ヲ來シ、國策ニ對スル思想的理解モ各派各様ニシテ、徒ラニ雜然タル批判交錯シテ撥キ一ニセズ、又有力知識階層ノ一部ニ在リテハ、國體明徴ノ名ノ下ニ奇矯ナル邪教的思想ヲ流布シ却ツテ國史古典ヲ否定シ、又ハ肇國ノ歴史ヲ紛淆スベキ主張ヲ宣傳シ、甚シキハ神宮御皇統ニ對シテ兎角ノ批判ヲ加フル等ノ傾向アリ。又革新陣營ノ一部ニ在リテハ意識的又ハ無意識的ニ左翼分子ト連繫シ、或ハ階級主義的乃至社會主義的意識ヲ以テ勤勞大衆ノ啓蒙獲得ニ狂奔スルアリ。斯ル傾向ハ戰況ノ如何ニ拘ラズ戰爭目的並國策ニ對スル思想的疑惑ヲ生ジ、國民相互間ニ不信ノ念嵩マリ、延イテハ國民ノ結束力ヲ弱化スルノミナラズ、國民的無氣力狀態ヲ招來スルノ



虞アリ。況ンヤ情勢最悪ノ場合ニ至ル時ハ取締上最モ困難ナル事態ノ發生ナシトセズ、最モ周到純正ナル取締ヲ要スルモノト思料ス。

以上一應現在ノ情勢ヲ基準トシテ治安ヲ觀點ヨリ今後警戒ヲ要スベキ諸點ヲ擧ゲタルモノナルガ、今後政府ノ施策ト相俟ツテ國民ノ舉國的努力如何ニ依リ、以上ノ障害ハ相當程度除却セラレ得ルコト論ヲ俟タザル處ナリ。

殊ニ國民ハ未ダ緒戰ノ段階ヲ經驗セルニ過ギズシテ、戰局ノ全貌及實相ヲ充分ニ理解認識シ居ラザル爲、眞ニ國民的底力ヲ發揮スルニ至リ居ラザルコト及歐米依存的經濟ヲ完全ニ脱却セザルママ、突如トシテ戰爭ニ突入セルニ依ル幾多ノ經濟的不利アルコト等ニ思ヲ致セバ、今後戰局ノ進展ト共ニ皇國臣民本來ノ面目自ラ振起セラレ、又諸政策逐次具現徹底セラルルニ從ヒテ、却ツテ一億一心國難打開ノ方途自ラ開カルルハ期シテ俟ツベキモノアリト確信スル次第ナリ。



第三

治安維持ノ根本方針

未曾有ノ大戦下複雑微妙ナル情勢ニ於ケル銚後國政ノ要諦ハ、官  
戰ノ大御心ヲ眞ニ國民ニ浸透セシムルト共ニ、御陵威ノ下、政府  
國民相互ノ絶對的信賴ヲ堅持シテ、凡有情勢ノ變化ニ對應シ得ル  
態勢ヲ整へ、又一度國策トシテ決定シタル事項ニ付テハ、如何ナ  
ル苦難ヲモ招可シ欣然トシテ之ガ具現達成ニ邁進シ、物心一如戰  
争ヲ聯拔カントスル國民士氣ヲ昂揚スルニ在リ。而シテ輿論指導  
ノ重點ハ、一般國民ヲシテ一ニ政府ニ信賴シ、徒ラナル流言ニ惑ハ  
サルルコトナカラシメ、特ニ指導階級ノ批判的乃至懷疑的態度ヲ  
拂拭シテ、確固不拔ノ覺悟ヲ以テ聖戰遂行ノ國策完遂ニ邁進スル  
ノ決意ヲ鞏固ナラシムルト共ニ、時ニ最惡ノ場合ニ於ケル國民  
經濟生活ノ最低限度ヲ國民ニ充分認識セシメ、今日ニ於テ之ニ處  
スル覺悟ヲ持續堅持セシムルコトニ在リト思料ス。而シテ此舉  
タルヤ主トシテ積極的政治施策ニ俟ツ處多シト雖モ、戰時下ニ



於ケル治安ノ要義モ結局ハ此處ニ存スルモノナルヲ以テ、此際治安警察ニ於テモ積極的政策ニ即應シテ、之ガ浸透實現ニ協力スベキ態勢ヲ強化スルヲ要スベク、他面ニ於テ治安ノ防害トナルベキ事象發生セル場合ニ於テハ、周到果斷ナル取締ヲ加ヘテ治安確保ノ責務ヲ全ウスルヲ以テ治安維持ノ根本方針トス。

之ガ爲ニハ先ヅ警察官自身承認必確、信念ト万難ヲ排シテ國體防護ノ責務ヲ果スベキ大勇猛心トヲ振起スルト共ニ、常住壓服自ラノ生活ヲ正シテ苟モ他ノ指彈ヲ受クルガ如キコトナキ儀努力、且常ニ内外情勢ト國策ノ向フベキ方向トヲ理解シ、民心ノ動向ニ細心ノ注意ヲ拂ヒテ常ニ身ヲ以テ衆ニ範ヲ垂ル。ノ概ヲ以テ國策ノ浸透徹底化ニ努ムルト共ニ、最悪ノ場合ニ處シテニ逃フコトナク敏捷果斷ナル處置ヲ講ジ、一身ヲ捨テ、治安確保ノ重責ヲ果シ得ル様自ラノ態勢ヲ整フルヲ以テ喫緊ノ要務トス。



第三 一般的對慮策

一、共產主義運動

自國政府ヲ敗北ニ導キ、其ノ混亂ノ時期ニ乘ジテ一舉ニ革命ヲ斷行セントスルハ現段階ニ於ケル共產主義運動ノ最大目標ナリ。即チ合法タルト非合法運動タルトヲ問ハス、結局ハ日本ノ危機到來ヲ待望シテ、策謀ニシテ、既ニ檢舉サレタル諜報活動、如キモ其ノ具体的一事例ニ過ギズ。從ツテ情勢ノ深刻化ト共ニ其ノ運動愈々熾烈化シ、運動方法ニ於テモ亦諜報活動、思想謀略、生産阻害等患辣ナル實戰形態ヲ採ルハ必至ナリ。

（一）軍需工場其ノ他、重要産業内ニ於ケル思想犯前歴者其ノ他、容疑者ノ發見ニ努ムルト共ニ其ノ動靜ニ注意スルコト

（二）思想犯前歴者其ノ他容疑人物ノ文書其ノ他ニ依ル外地連絡ニ關シテハ關係官署ト緊密ナル連絡ヲ保持シ、之ガ事前發見ト連絡網ノ破壊ニ努ムルコト



- (三) 労働争議、小作争議等ニ對シテハ勿論其、他懇談陳情上申、如キ平穩ナル方法ニ依ル要求等ニ對シテモ、背後ニ共產主義分子ノ介在ナキヤ否ヤヲ注意シ、又文化団体、同人雜誌關係者、軍事援護団体、日本主義団体内ニ於ケル容疑者、行動ニ留意スルコト
- (四) 被疑者、取調ニ當リテハ共產主義運動、外、謀略活動、有無ニ注意スルコト
- (五) 昭和十六年七月二十一日附警保局保發甲第一七號「治安維持ニ關スル非常措置ニ關スル件」通牒ニ基ク名簿、整理ヲ爲シ、事態突發ニ際シ豫防檢束其、他適切ナル措置ヲ講ジ得ル様十分用意シ置クコト



一、労働農民其ノ他經濟關係一般

國民ノ經濟生活ニ關スル不平不調激化シツツアルハ、治安維持ノ觀點ニ於テ將亦國家富面ノ要諦タル戦力増強ノ見地ニ於テ極メテ愛顧スベキ事項ナルガ、之ガ因ツテ來ルベキ各種ノ原因其他民心ノ動向ヲ巨細ニ把握シテ下情ヲ上通シ、施策ノ樹立運営ヲ民情ニ合致セシムルコトニ努ムルハ勿論、他面上迄下達以テ適切ナル指導啓蒙ヲ加ヘテ各種ノ紛争議、其他不測ノ事端ノ發生ヲ防止スルニ努ムル等、戦中生活ノ確立ニ強力ナル活動ヲナスベキモノトス。

〔二〕労働組合、農民組合ノ全面的解消ヲ遂ゲタル今日ニ於テハ、從來ノ如ク團體幹部ノ言動ノミニ依リ労働者農民ノ思想動向ヲ察知スルコトハ不可能ナルヲ以テ、視察内偵ニ新ナル工夫ト努力ヲ加ヘテ刷新強化ヲ圖リ、底流スル思想動向ノ把握ニ萬全ヲ期スルコトトス。



一 舊労働組合、農民組合關係者特ニ幹部ノ動向ニ留意シ、階級の運動ノ再生ハ之ヲ其ノ萌芽ノ内ニ絶滅スルコト

二 労働及小作爭議ハ凡テ之ヲ未然ニ防止スルヲ第一義トシ、既發ノ爭議ニ付テハ適切妥當ナル指導取締ヲ加ヘテ急速ナル解決ヲ圖ルト共ニ、爭端發生ノ原因ヲ究明シ之ガ徹底的排除ニ努ムルコト

三 爭議化スルニ至ラザル反動策的動向ニ付テハ適正ナル指導取締ヲ加ヘルト共ニ、其ノ因ツテ來ル原因ヲ探究シ之ガ徹底的解決ニ努ムルコト

四 三ノ事案ニ付テハ強權ヲ用フル事アルベキ場合ヲ考慮スルコト

五 生産増強ニ關スル諸施策ニ對シテ、關係方面ト密接ナル連絡ヲ執リ、之ガ協力ニ付積極的万般ノ万策ヲ盡スト共ニ、他面生産ヲ阻害スル諸現象ニ對シテハ、凡有手段ヲ講ジテ之ガ排除ニ努ムルコト



(四)

生産原料ノ超重點的配給或ハ鐵鋼等ノ回收強化等今後此ノ種非常緊急措置ノ斷行ニ際シ關係事業主ニ對スル補償或ハ従業員ノ離職轉職ニ對スル措置ハ治安ニ及ボス影響極メテ重大ナルヲ以テ之ガ圓滑ナル遂行ヲ期スル爲強力ナル活動ヲ爲スコト

(四)

國民生活ニ於ケル些末ナル紛議ト雖モ重大ナル事端發生ノ素因トナルベキ客觀狀態ナルヲ以テ之ガ急速ナル解決ニ努ムルコト



三、國家主義運動其ノ他一般政治運動

國家主義運動及政治運動指導取締ノ主眼ハ之ヲシテ戰時國策ノ向フベキ方向ニ同調セシメ、一億國民ノ士氣ヲ昂揚スベキ純正ニシテ強力ナル運動タラシムルニ在ルモノトス。

然レドモ最近ノ運動情勢ハ政府重臣、官僚其他政治上層部ニ對スル批判的空氣漸次濃厚トナリツツアリ。殊ニ政府ノ施策ニ對シテ種々非難攻撃ヲ加ヘ、徒ラニ國內相剋對立ヲ惹起スルノ虞アルモノ、繁カラントスルノミナラズ、一部急進分子ニ在リテハ局面打開ニ焦燥ノ余リ依然トシテ直接行動ニ依ル國內維新ヲ云爲スルモノ、跡ヲ絶タサル狀況ナリ。特ニ注意警戒ヲ要スルハ此種運動ヲ疑裝スル左翼分子ノ潛入蠢動ノ傾向ニシテ、今後國家主義運動並政治運動ノ主眼ガ戰時經濟政策ノ渾營就中生産増強問題及國民經濟生活ノ現實ニ向ケラルルコト必至ナルニ鑑ミ、經濟理論ニ巧ミナル左翼分子ガ昭和維新ニ名ヲ假リテ蠢動スルノ傾向容易ナルモノアルハ予想セララルル處ナリ。



(一) 反政府的運動

- (1) 各團體、分子ニ就キ時ニ戰爭指導方策、外交及經濟政策ニ關スル主張、内容、程度、強弱、及思想的根據ヲ内査シ、團體ニ在リテハ更ニ其ノ中心人物又ハ裏面人物ノ動靜ニ付注意スルコト
- (2) 反政府的意識ヲ以テ政府ノ施策ニ對シ徒ニ論難攻撃ヲ加ヘ、國民ノ不平不満ヲ誘發煽動スル如キ運動ニ對シ指導取締ノ徹底ヲ期スルコト
- (3) 思想結社ニシテ其ノ性格ヲ逸脫シテ政黨結社的行動ヲナスモノニ對シテハ之ヲ抑制スルコト
- (4) 生産增強運動其他時局的運動ヲ名目トスルモノト雖モ、徒ニ國民ノ不平不満ヲ排發シテ組織ノ擴大ヲ圖ラントスルガ如キ不純ナルモノハ嚴ニ取締ルコト



(5) 國体明徴運動ニ名ヲ藉リ徒ニ反政府的策動ヲナシ、又ハ大衆ニ宣傳煽動ヲナシテ國論不統一ヲ惹起スル虞アル如キ運動ハ之ヲ抑制スルコト

(6) 政界、財界、言論界其他ノ方面ニ於テ極端ナル自由主義的個人主義的思想ヲ有シ、或ハ平素ヨリ反戰的意嚮ヲ有スル人物ヲ内査シ勸諭ニ注意スルコト

（二）右翼疑裝運動

(1) 國家主義陣營内ニ於ケル共產主義乃至社會主義運動前歴者及之等ト連絡交友アル分子、或ハ階級主義的傾向アル團體、分子ノ動向ニ對シテハ、常ニ周密ナル視察内偵ヲナスコト

(2) 工場、鑛山等ノ勤勞大衆層、中小商工業、平和産業等國策ニ依ル機性部層又ハ農民ニ對シ、特ニ組織ヲ擴大強化セントスル傾向アル團體ニ對シテハ、視察内偵ヲ強化シ取締ヲ嚴ニスルコト



三 非合法活動

(1) 非合法活動ニ對シテハ特ニ塾活動及急進分子ノ同志的結束

ニ對シ、視察内偵ヲ嚴ニシ、事端ノ發生ヲ絶對ニ防止スルコト

(2) 急進的現役將校ト連絡交友アル分子、或ハ故ニ之等軍人ニ接

近セントスル傾向アルモノニ對シテハ内偵ヲ強化スルコト

(3) 視察線外不穩分子ノ發見ニ就キ格段ノ注意ヲナスコト

四 非常事態ノ發生アル時ハ平素ノ内偵調査ニ基キ、反國策的言動

ヲナス處アル者ニ對シ徹底セル指導ヲ行ヒ、事端ノ擴大ヲ防止

スル爲必要アル場合ハ其ノ者ノ一切ノ運動ヲ抑止シ、或ハ其ノ身

柄ヲ拘束スルコト



#### 四、宗教運動

戰時下最干緊要トスル國民ノ捨身奉公的熱意ノ發揮ハ、純正ナル信仰心ノ昂揚ニ俟ツキ、多シト雖キ、宗教ニシテ一度之ガ軌道ヲ脫セムカ、隱微ノ間ニ國民精神ヲ蝕毒シテ國民ノ士氣ヲ萎靡頹廢セシムルノミナラス、ソノ高スル處迄ハ、國內思想混亂ヲ醸成シ、其ノ禍害眞ニ輕視シ得サルキアリ。

最近ニ於ケル我國宗教諸團體ノ動向ヲ概観スルニ、既成ノ教派、宗派、教團等ニアリテハ微力乍ラ若干ノ時局活動ヲ爲シ、概々時局即應ノ態度ヲ示シツツアルモ、個々ノ宗教々團、僧侶及宗教結社等ノ中ニハ却ツテ一部民心ノ不安動搖ヲ起シ、各種ノ妄誕虛説ヲ流布シテ人心ヲ惑亂スルモノ、或ハ人情ノ斷絶ヲ起シテ背德亂倫ノ所爲ニ出ツルモノ、或ハ又反戰乃至厭戰的惡想信仰ヲ流布スルモノ等依然其ノ跡ヲ絶ツト至ラス。

今後戰局ノ進展ニ伴ヒ、此種不逞宗教事犯ノ發生愈々多カルベキハ、



亦過去ノ例ニ徴シ容易ニ探測シ得ル處ナリ。

而シテ是等不穩ナル宗教事犯ニ對シテハ常時固ニ秘密ナル脱弊内  
偵ト峻嚴ナル摘發ヲ加フル要アルハ勿論ナル也。他面宗教ノ民心ニ  
及ボス影響ノ重大ナルニ鑑ミ、概宜ニ嚴シ切切ナル指導的取締ヲ加  
ヘ、事犯ノ未然防止ニ格別ノ措置ヲ講スルノ要アリ。

〔一〕 宗教犯罪ニ關シテハ特ニ治安維持法關係犯罪乃至反戰反軍等  
ノ思想的犯罪ニ取締ノ重點ヲ置クコト

〔二〕 前項ニ關シテハ集團的犯罪ニ對シテノミナラズ、個々ノ宗教教  
師僧侶等ノ言說行動ニ對シテモ充分ナル查察取締ヲ爲シ、反戰  
、反軍、反軍其ノ他人心ヲ惑亂スル虞アル言助ニ就テモ充分留意  
スルコト。

〔三〕 宗教ニ依ル外國ノ謀略活動ノ有無ニ就テハ特ニ嚴密ナル查察  
警戒ヲ加フルコト。特ニ英米系基督教宗門及超國家主義思想又  
ハ極端ナル平和人道主義ヲ信奉スル基督者ニ對シテハ留意スル  
コト



四 國體明徴ヲ標榜シ、眞偽不明ナル古文書、古器、古墳等ヲ

宣傳シテ國民大衆ノ國體觀念ヲ惑亂スルガ如キ宗教類以ノ各

種團體、運動等ニ對シテモ充分注意取締ヲ爲スコト

五 徒ニ他派ヲ排斥シ故ラニ宗教ニ依ル國內相剋ヲ養成セン

スルガ如キモノニ對シテハ、適當ナル指導取締ヲ加フルコト

六 取締ニ當リテハ常時適切ナル行政措置ヲ併用シ、信託ノ轉信

指導ニ力メ、以テ不穩活動ノ根絶ヲ期スルト共ニ、未ダ犯罪ノ程

度ニ達セザルモノニ對シテモ、任意解散其ノ他適切ナル方法ニ

依リ指導取締ノ妙味ヲ發揮スル様留意スルコト

七 昭和十六年七月三十一日附警保局發甲第一七號「治安維

持ニ關スル非常措置ニ關スル件」通牒ニ基ク名簿ノ再整理

爲シ、事態突發ニ際シテ豫防檢束其ノ他適切ナル處直ヲ講シ

ル様十分用意シ置クコト



五 朝鮮人關係

朝鮮人、性格的特性ハ復讐心ノ強烈ナルコト及多分ニ重大思想ヲ有スル點ニアルヲ以テ、今後ノ治安對策上注意ヲ要スルコトハ凡ユル思想運動ガ民族獨立運動ニ轉換シ、而モ之等ノ分子ガ謀略行爲ヲ敢行スル虞アルコト及一般朝鮮人間ニ英米依存的寡團氣起リ、動トモスレバ不穩分子ノ策動ニ乘セララルル虞アルヲ以テ、之ガ指導取締、徹底ヲ期スルヲ要ス。

(一) 民族運動

(1) 内鮮關係要視察人ニ對スル視察内偵ヲ強化スルハ勿論、特ニ學生智識階級ノ動向ニ留意シ、視察外容疑人物ノ發見ニ努ムルコト特ニ此等分子ノ謀略活動ニ注意スルコト

(2) 南方諸地域ノ歸屬問題ニ開聯シ、朝鮮獨立ノ要望一部ニ抬頭シツツアルニ鑑ミ、此際一般朝鮮人ノ動向ニ就テモ嚴ニ注意スルコト



㊦ 一般朝鮮人ノ指導取締

(1) 朝鮮人ノ特質ニ鑑ミ時局ノ推移ニ應ジ特ニ左ノ事項ヲ指導

シ、他ノ宣傳煽動ニ乗ゼラレザル様留意スルコト

イ、戦争遂行ノ過程ニ於テ如何ナル事態發生スルトモ、結局帝

國ノ勝利ニ歸スベキモノナルコトヲ理解徹底セシムルコト

ロ、假令空襲其ノ他非常事態發生ノ場合ト雖モ、其ノ身邊ニ付

テハ必ず安全ヲ保證スルモノナルヲ以テ、總テ當局ノ指示ニ

信頼シ之ニ基キ行動スルノ要アルコト

(2) 内鮮協和ノ趣旨ヲ徹底シ、内鮮人相互ノ對立ヲ來サザル様留

意スルト共ニ、萬一紛争議ノ發生シタル場合ハ、些細ナル事項

ト雖モ看過スルコトナク公正ナル措置ヲ講ジ、速ニ解決スルコト

㊦ 非常措置

昭和十六年七月三十一日附警保局保發甲第一七號「治安維持ニ

關スル非常措置ニ關スル件」通牒ニ基ク名簿ノ整理ヲナシ、事態

突發ニ際シテ豫防檢束其ノ他適切ナル措置ヲ講ジ得ル様十分準

備シ置クコト



六 各種運動ノ指導取締

(一) 言論ノ指導取締

要 領

時局下ニ於ケル言論ノ指導取締ハ、宣戰ノ大詔ヲ眞ニ國民ニ徹底セシムルト共ニ、戰時國策ノ向フ處ヲ國民ニ理解認識セシメ、以テ皇國臣民本來ノ面目ヲ振起旺盛ナラシメ、凡有苦難ヲ克服シテ一億總進軍ノ潑刺タル士氣ヲ鼓舞激勵スルニ資セシムルヲ以テ主タル目標トス。然ルニ最近ノ言論傾向ヲ見ルニ、開戰以來ノ緊張動トモスレバ弛緩シ、徒ラニ政府官僚ニ對スル批判ヲ專トシ、或ハ國民ノ不平不滿ヲ挑發煽動スルガ如キモノ漸次禁カラシトスル傾向ニアリ。殊ニ斯ル傾向ハ所謂知名ノ士ニ多ク、斯ルモノヲ放置スルニ於テハ輿論指導ニ重大ナル影響ヲ及ボシ、ヒイテハ戰爭完遂ニ多大ノ支障ヲ及ボス虞アルヲ以テ、非國策的、非戰



時的言論ニ對シテハ、此際嚴重ナル取締ヲ加フルノ要アルモノトス。

尙言論取締ニ關シテハ今後特ニ本省、地方及關係各府縣ノ連絡ヲ迅速適應ナラシメ、取締ノ齊一徹底ヲ期スル要アリ。

(1) 言論ニ對シテハ努メテ積極的指導ヲ怠ラザルト共ニ、非國策的言論ニ對シテハ寬ニ失スルコトナク、周密徹底セル措置ヲ講ズルコト

(2) 言論取締ハ成ルベク事前指導ニ依リ目的ヲ達スルヲ適當トスルモ、之ニ依リ取締ノ目的ヲ達シ得ザルモノニ對シテハ斷乎タル制壓ヲ加フルコト

(3) 事前指導ニ當リテハ形式ニ關スコトナク、相手方ノ地位、講演ノ場所、聽衆等ニ應ジ克ク取締ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト



(4) 既往、實ニ微シ指導取締ヲ無視スル様アリ、又ハ言論内容特ニ惡質ナルモノニ對シテハ當人、出演ヲ制限シ、或ハ集會ヲ不許可トナス等取締、徹底ヲ期スルコト

必要アル場合ハ本省ヨリ之ガ指示ヲナスコトアルベシ。  
(5) 反政府的意圖ヲ有スル者又ハ左翼前歴者等ニ對シ周密ナル注意ヲナスハ勿論ナルモ、所謂知名ノ士ニ付テモ其ノ言説ノ影響大ナルニ鑑ミ充分注意スルト共ニ不穩ナル言論ニ對スル取締ニ付テハ寛ニ流レザル様留意スルコト

(6) 臨監ニ當リテハ論旨ヲ綜合判斷シテ講演者ノ思想、真意ヲ捕捉シ、特ニ聽衆ニ與フル影響ヲ考慮シ取締ヲナスコト

(7) 兎角ノ問題アル知名ノ士等ニ對シテハ特ニ綿密ナル

29



速記ヲ附スルコト

(8) 講演會ニ於ケル言論ノミナラズ座談會等特定少數人ノ集會ニ付テモ、講演者、會同者ノ種類ニ應ジ嚴ニ注意スルコト

殊ニ最近座談會ノ開催多ク、且其ノ言論ニシテ取締法規ニ觸レ、又ハ流言蜚語ノ原因トナル例尠カラザルヲ以テ留意スルコト

(9) 集會ヲ不許可トシ、又ハ出演ヲ制限シタル場合ハ速ニ本省並ニ關係府縣ニ連絡シ、取締ノ齊一徹底ヲ期スルコト、要注意言論ノ内容ニ就テモ亦同ジ

言論取締ノ標準

(1) 大東亞戰爭關係

イ、大東亞戰ニ關スル皇國ノ眞意ヲ曲說シ、我公明ナル態度、措置ヲ誣妄スル等我方ノ不利ヲ招來スルガ



如キモノ

ロ、戦争遂行ニ關シ政府、統帥府又ハ重臣等ノ間ニ意見ノ對立、相剋アリトナスガ如キモノ

ハ、作戰又ハ軍政ノ企圖、方針又ハ實施ニ關シ異說ヲ主張シ、或ハ反對的批判ヲナスガ如キモノ

ニ、政府又ハ統帥府ノ發表ニ關シ國民ヲシテ疑惑ノ念ヲ醸成セシムルガ如キモノ

ホ、戦争ノ前途ニ對シ徒ニ悲觀的見解ヲ表示シ或ハ戦ノ影響ニ依ル生活窮乏、敗行現象等ヲ誇張シ、其ノ他戦争ノ悲惨面ヲ云爲スル等厭戰又ハ反戰的氣運ヲ醸シ、或ハ國民ノ必勝信念ニ動搖ヲ生ゼシムルガ如キモノ

ヘ、軍首腦部又ハ軍部ノ專横或ハ陸、海軍部ノ對立、相剋ヲ云爲スル等軍民離間ヲ招來シ、又ハ反軍的思想

31



ヲ讓成セシムルガ如キモノ

ト、敵國トノ妥協ヲ主張シ又ハ國內ニ和平策動アルカ  
ノ如キ言説ヲナシ、徒ニ國民ヲ刺戟スルガ如キモノ  
チ、徒ニ戰爭ノ前途ヲ樂觀視シ、又ハ南方物資ノ流入ニ  
過大ノ期待ヲ抱カシムル等國民ノ緊張感ヲ稀薄ナラ  
シメ、戰爭遂行力ニ惡影響ヲ及ボスガ如キモノ

リ、濫リニ中華民國及南方諸地域ノ歸屬、統治方式又  
ハ經濟政策ニ關シ異說ヲ主張シ、政府ノ大東亞經綸ニ紛  
淆ヲ生ゼシムルガ如キモノ

(2) 對外關係

イ、我國ト滿洲國、國民政府、樞軸諸國其他盟國トノ  
國交調整ノ根本方針ニ反對シ、又ハ之ヲ歪曲スルガ如  
キモノ



ロ、滿洲國又ハ國民政府ノ實力ヲ甚ダシク輕視シ、又ハ我國ノ傀儡ナルカ、如キ印象ヲ與ヘ、或ハ樞軸諸國又ハ其ノ他ノ與國ノ首腦者又ハ其ノ國力、國情等ヲ誹謗スル等滿洲國トノ不可分關係並ニ國民政府、樞軸諸國等ト、協力關係ニ惡影響ヲ及ボスガ如キモノ  
ハ、樞軸諸國ノ作戰ヲ豫斷シ、又ハ戰況不利ヲ誇大ニ云爲スル等戰爭遂行ニ不利ヲ招來スルガ如キモノ  
ニ、對蘇開戰ヲ主張シ、或●殊更ニ蘇聯邦ヲ刺戟スル等對蘇關係ニ惡影響ヲ及ボスガ如キモノ

(3) 政治關係

イ、濫リニ政府、又ハ個々ノ閣僚、或ハ政府ノ政策ヲ誹謗攻撃シ、又ハ政變、又ハ閣僚ノ更迭ヲ憶測、示唆、主張スル等政治不信ノ念ヲ醸成セシムルガ如キモノ



ロ、濫リニ國內上層部ヲ論難攻撃シ、國內相剋ヲ誘發シ  
又ハ上層部ニ對スル國民ノ信賴ヲ動搖セシムルガ如  
キモノ

ハ、反官的空氣ヲ宣傳煽動シテ國家行政全般ニ對シ不  
信ノ念ヲ招來セシメ、又ハ國民ノ反官的感情ヲ醸成、  
激化セシムルガ如キモノ

ニ、殊更ニ大政黨贊運動ヲ曲解誹謗シ、政治不信ノ念ヲ  
醸成シ又ハ國民ノ運動ニ對スル熱意ヲ喪失セシムル  
ガ如キモノ

ホ、國內革新ノ必要ヲ主張スルニ當リ不法又ハ矯激ナ  
ル手段ヲ示唆煽動スルガ如キモノ



(4) 經濟關係

- イ、徒ニ經濟統制ノ運營ニ關シ反對シ、又ハ其ノ本旨ヲ歪曲スル等國民ニ對シ經濟統制ノ緩和ヲ希求セシメ、或ハ經濟統制ニ對シ嫌忌ノ念ヲ醸成セシムルガ如キモノ
- ロ、物資不足又ハ物資需給不圓滑ノ狀況ヲ誇大刺戟的ニ云爲シ、國民ノ不平不滿ヲ誘發シ、或ハ社會不安ヲ惹起スルガ如キモノ
- ハ、生産力ノ低下ヲ誇大刺戟的ニ云爲シ、戰時經濟ノ前途ニ不安ノ念ヲ抱カシムルガ如キモノ
- ニ、物資ノ擱取引、眞惜ミ又ハ買溜ヲ示唆スルガ如キモノ
- ホ、低物價政策ニ反對シ又ハ政府ノ低物價政策放棄ヲ臆測シ、或ハ徒ニ物價騰貴ノ狀況ヲ誇張シテ人民ヲ不



安動搖セシムル等物價政策、遂行ニ惡影響ヲ及ボス  
ガ如キモノ。

ハ、財政破綻又ハ惡性インフレーション、必至ヲ豫斷  
シ、或ハ國民貯蓄、強化、公債消化、低下等ヲ誇大ニ  
宣傳シ、又ハ國民、貯蓄心、公債消化熱ヲ消擧セシ  
ムル等財政金融政策、遂行ニ惡影響ヲ及ボスガ如キ  
モノ。

ト、國民所得ノ跛行狀態又ハ國民負擔ノ不均衡ヲ強調  
シ、國民ヲシテ不平不滿ノ念ヲ生ゼシムルガ如キモノ  
チ、轉失業等犠牲面ヲ刺戟的ニ取扱ヒ、人心ヲ不安動搖セシ  
ムルガ如キモノ。

(5) 其ノ他

イ、徒ニ國內ニ齟性ノ存在スルコトヲ強調シ、國民ノ間  
ニ相剋内訌ヲ生ゼシムルガ如キモノ。



ロ、濫リニ現代又ハ古代ノ事ニ憶説ヲ主張シ、又ハ古典、古文書等ニ基キ奇矯ナル思想ヲ流布スル等類休ヲ晦冥ナラシメ、又ハ人心ヲ惑亂スルガ如キモ、

ハ、時局ニ關シ流言蜚語ノ根源トナルガ如キモ、ニ、其ノ他軍駐、外交、經濟上ノ秘密ニ亘ルガ如キモ

ホ、假令古事又ハ外國ノ實例ヲ引用スルモノト雖モ、殊更ニ之ヲ技倆ノ現着ニ譬喩暗示シテ本取端標準ニ抵触スルガ如キモ、

(二) 集會、多衆運動、立看板、ビラ、ポスター等取締

(1) 昭和十六年七月三十一日附警察局長保甲第一七號令  
安維持ニ關スル非常措置ニ關スル件一通牒ニ依キ取扱  
上遺囑ナキヲ明スルコト

(2) 立看板、ビラ、ポスター等ノ内容ニ付テハ新聞記事